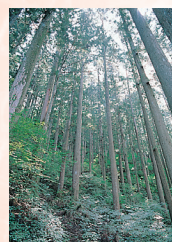


技術情報カード

No.136

平成23年9月

URL:<http://www.green.pref.tokushima.jp/shinrin/index.htm>



●●●●●
技術情報カード No.136
平成23年9月

徳島県立農林水産総合技術支援センター
森林林業研究所

〒770-0045
徳島市南庄町5丁目69
TEL 088-632-4237
FAX 088-632-6447



囲いワナを使用したニホンジカの捕獲（第2報）

はじめに

植栽したスギ苗木がニホンジカの食害によって、大きな損害を被っており、森林の荒廃や林業の持続性が危ぶまれています。増えすぎたニホンジカや林業のシカ被害を抑制するとともに、個体数管理が可能な捕獲方法を開発するため、技術情報カードNo.126（H23.3発行）で報告しているとおおり、当研究所では「囲いワナ」を使用したニホンジカの試験捕獲を実施しています。

前回の報告では、剣山地域を対象とした高標高地域における調査結果をご紹介しました。今回は、林業地域（上勝町大字旭）を対象に、誘引餌による誘引方法で捕獲調査を実施した結果について、その概要を報告します。

1 試験方法

囲いワナ（写真1）は、長さ2mのL字型鉄製アングルを立方体に組み、立方体を2基接続し、幅2mの両出入り口、奥行き4mのサイドネット柵、高さ2mの天井なしの長方体としました。両出入り口の扉ネットは10cm角目、サイドネットには5cm

角目のDMネットを使用しました。

仕掛け（トリガー）は、シカが囲いワナの中央部に張ったテグスに触れると、重りが落下し、両出入り



写真1 「EN-TRAP」 囲いワナ

口の扉ネットが持ち上がる方法で閉じ込めます。テグスは「板式ネズミ取り器」に連結し、バネが跳ねることにより、かんぬきに掛けてある重りと連結しているロープが外れるようになっています。

誘引餌は、ヘイキューブ（アルファ草）、ビートパルプ（砂糖大根滓）、フサザクラ、カラムシ等の嗜好が認められるものを使用しました。

試験捕獲は、調査により得たシカの習性や行動性から、十分な餌付けと馴化を確認することが必要であり、平成23年3月末までの学術研究を目的とする捕獲許可を得て実施しました。調査地は、東向きの緩斜面に位置し、2年生広葉樹と15年生スギの人工林が隣接する林縁部としました。

2 結果と考察

設置場所の決定から34日間の誘引餌による餌付けを経て、囲いワナを平成22年4月14日に組み立てました。22日間の囲いワナの馴らしにより、4頭の群れの馴れを確認し、平成22年5月6日にトリガーをセット、翌日3頭を捕獲しました(写真2)。残り1頭を捕獲するため、餌付けによる囲いワナの馴らしを続ける工程となりました。



写真2 シカの捕獲(雄1頭、雌2頭)

3頭捕獲後(5月8日~翌年3月31日)の月別シカ痕跡観察記録を表1に示します。捕獲後の痕跡率0.25は観察日(328日)の約1/4の値となりました。痕跡率は10月をピークに、7月と11月に最低値を記録しました。10月は繁殖期による個体の流動、7月は森林の植生繁茂期による食物条件の好転、11月は狩猟解禁期が数値に影響したと考えられます。痕跡は観察できましたが、逃した1頭の個体なのか、別個体なのかは確認できませんでした。また、食痕や糞を観察しない月もあり、他の個体群の流動も観察できませんでした。シカが危険を察している可能性も考えられますが、ハイキューブなどの誘引餌は、誘引性能を発揮していませんでした。

ニホンジカの生息地は、本来、数十頭が草原で群れをなし、多くの個体が同じ利用域を利用しています。しかし、森林では、草原のように解放空間が少

ないため、3~6頭の個体群(雌親と子供の群れ)が、それぞれ決まった利用域で生息します。また、群れには強いなわばり意識がないため、他の個体群を排除することがありません。捕獲により利用域が空き域となっても、他の個体群の利用域に餌があれば、空き域へ流動し利用することもないと考えられます。餌付けや馴らしに時間を要しますが、捕獲効率を高めるためには、囲いワナを他の個体群の利用域へ移動することが必要でした。

囲いワナは、日時の経過にともない錆や損傷による劣化が進み、分解が容易でなく、リサイクルに必要な可搬性と簡易性は、部品数や重量等の低減をしなければ困難な状況となっています。また、誘引餌については、嗜好性のある植物であっても誘引性能を持っているわけではなく、植生繁茂期でも誘引できる強力な餌や、習性や行動性を利用した誘引手法を開発する必要があります。誘引が容易になれば、年間を通じて捕獲ができ、大量捕獲への個体数管理が可能になると考えられます。

おわりに

今年度は、引き続き囲いワナの捕獲調査の検証を行うとともに、囲いワナの①資材費、②資材の重量、③部品数などの低減を図り、林家等の方々により扱いやすい捕獲方法を見出したいと考えています。

【引用・参考文献】

- 1) 遠藤晃ら：哺乳類科学40(2)、145-153(2000)
- 2) 三宅裕司ら：平成22年度業務年報(2011)

表1 月別シカ痕跡観察記録

| 痕跡日 | | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 足跡 | 中 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 13 |
| | 外 | 4 | 7 | 3 | 5 | 12 | 13 | 2 | 5 | 7 | 4 | 3 | 65 |
| | 小計 | 4 | 8 | 3 | 5 | 12 | 13 | 2 | 7 | 8 | 4 | 4 | 70 |
| 食跡 | 誘引餌 | 中 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 8 |
| | 外 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 12 |
| | 小計 | 2 | 5 | 0 | 0 | 3 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 18 |
| 野生植物 | 中 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 外 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 小計 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 糞 | 中 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 外 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 小計 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 痕跡率 | | 0.17 | 0.30 | 0.10 | 0.19 | 0.47 | 0.55 | 0.10 | 0.23 | 0.26 | 0.14 | 0.19 | 0.25 |

※単位は、日数である。
同日観察は、加算していない。
※中は、囲いワナの敷地(2m×4m)内、外は、敷地外である。

◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター森林林業研究所
次世代林業戦略担当 橋本 茂
TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447